



お正月映画 得情報

2000・12・15, No. 27-7
編集・発行：名大職組中央執行委員会
連絡先： 4913 (内線・FAX兼用)



緒形直人
岩崎ひろみ
古田新太
前田 吟
山本 圭
篠田三郎
林美智子
日色ともゑ
須藤温子
犬塚 弘
平泉 成
樋浦 勉
並樹史朗
高橋長英
内藤武敏
尾美としのり
河原崎建三
永島敏行
林 隆三
加藤 剛



その
時
が
来
た
！



組合員特別価格

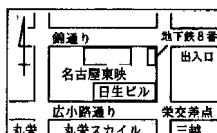
<特別鑑賞券>

一般・大・高生券 1000円

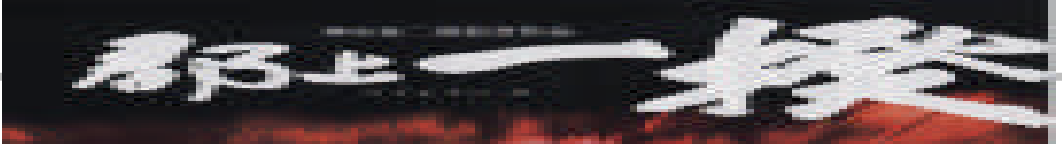
シニア・小・中生券 500円

12月23日～1月12日

地下鉄〈栄駅〉8番出口上る
名古屋東映パラス
☎052(971)3440



【取り扱い・お問い合わせ】名大職組事務室 内線4913



江戸時代中期の代表的一揆である「郡上藩宝暦騒動（郡上一揆）」。その闘いは、足かけ5年にわたって闘われ、一私藩の一揆が幕閣中枢の老中を失脚にまで追い込みました。一揆の歴史が真正面から描かれるのは、日本映画史上初めての事と言っていいでしょう。その映画『郡上一揆』が、づいに完成しました。

「一揆」とは、心を - つにすること

突発的に起こり、ムシロ旗を立てて代官所を襲う暴徒の群れ - 教科書などから得られる「一揆」の一般的なイメージはおおよそこんなところではないでしょうか。この映画では、「真っ黒に日焼けし、身なりがまわす生活に追われて働く弱者」という、従来の農民のイメージを覆し、「いつも身だしなみを整え、知識も豊かで、力強く気高い」農民像が描かれます。「唐傘連判状」で結束を高め、幕閣の権力争いを見抜いた上で郡上藩主が属していない派閥の老中にかご訴を決行する農民たち。これまでの時代劇ならただ訴状を差し出す場面しか描かれませんでした。美濃国郡上藩の農民が、江戸城門前の老中にたどり着くまでにどれほどの過程があったか……。したたかでねばり強い法廷闘争であり、道理を訴える闘いとしてのとしての「一揆」、そしてその闘いを支えた農民たちの「一つになった心＝一揆」！この映画は時代劇ではあるが、サムライの映画ではありません。働いて国を支えた人びとの、「正義」と「勇気」を描いた作品です。

映画を支えた3500人のエキストラ！

映画の撮影は、今年3月中旬から2ヶ月余りにわたって行われました。群衆シーンの撮影を支えたボランティアエキストラの数は、のべ3500人。5月に行われた撮影では、一日で千人のエキストラが集められ、郡上城に農民たちが押し寄せる冒頭の一大群衆シーンが撮影されました。「誇りある郷土の歴史を語り継ぎたい」と、映画作りの為に“心を一つにした”地元・岐阜の人たち。数以上にその「気迫」が、スクリーンに焼き付いています。

先人の気高い生きざまに学ぶ

「青少年がどこに力を向けていいかわからない状況に置かれている現代だけに、本来、人が持っている熱い心に響く作品に仕上げたい」と、撮影終了直後に語っていた神山監督。その言葉通り、映画では、「勉強して村のために役に立つ人間になれ」と育てられ、その通りに生きた定次郎ら若い一揆指導者たちの気高い生きざまが描かれています。その気高さとは -

- * たがいの人格と権利を尊重し、みんなの事を考える。
- * うそやごまかしを排し、真実と正義を愛する心。
- * 社会の生産を支える勤労の重要な意義を身につける。
- * みんなの協力を大事にしながら、自分の責任は自分で果たす自立心。
- * 親、兄弟や友人、隣人へのあたたかい愛情。

こうした、市民として欠くことの出来ないモラルの確立が求められている時、映画『郡上一揆』は、250年前の先人達の「生」と「死」とおして、「愛」と「勇気」と「正義」を正面から描ききっています。